

令和6年度第2回秋田県青少年健全育成審議会
会 議 録

日 時 令和6年11月15日（金）10時30分～11時30分

場 所 秋田地方総合庁舎6階 総605会議室

出席者

○ 秋田県青少年健全育成審議会委員（敬称略、五十音順） 9名

伊 藤 広 行	秋田少年鑑別所長
笈 川 正 典	秋田弁護士会
大 島 ヒロ子	秋田県警察本部生活安全部人身安全対策課
熊 谷 隆 益	公益社団法人青少年育成秋田県民会議 会長
沢 屋 隆 世	秋田大学非常勤講師
菅 野 薫	学校法人聖霊学園聖霊女子短期大学講師
高 橋 賢 史	秋田県PTA連合会副会長
早 川 恵	秋田県ボランティア団体連絡協議会鳥海山麓自然学校代表
山 名 裕 子	秋田大学教授

○ 事務局

次世代・女性活躍支援課長	糯 田 正 宏
同課政策監	檜 山 善 春
同課チームリーダー	青 山 真紀子
同課副主幹	佐 藤 浩太郎
同課主任	田 中 登 子
同課主事	加 藤 栞 奈

進 行	内 容
事 務 局	1 開会
事 務 局	<p>本日の審議会は、委員14名中、9名の出席であり、過半数を超えていますので、当審議会での議決は成立いたします。</p> <p>ここからの進行は会長にお任せしたいと思います。</p>
会 長	2 審議
事 務 局	<p>次第(2)「議題」の審議に入ります。</p> <p>議題①「秋田県青少年健全育成審議会運営要綱の一部改正について」、事務局から説明をお願いします。</p> <p>資料4－1の改正理由については、「あきた子ども・若者プラン」が「秋田県こども計画」に統合されることとなったため、「あきた子ども・若者プラン策定部会」に関する規定を削除したいと考えています。「秋田県こども計画」は現在、秋田県こども計画策定委員会で審議しながら策定作業を進めているところで、この後の報告①で、現在の作成状況やスケジュール等について報告します。改正内容については、第3項から、あきた子ども・若者プラン策定部会に関する規定を削除することとし、第4項からは、あきた子ども・若者プラン策定部会の審議事項に関する規定を削除することとします。施行期日については、本日付けを予定しています。資料4－2は要綱改正案の新旧対照表、資料4－3が改正後の要綱案となっています。</p>
会 長	事務局から説明のありました「秋田県青少年健全育成審議会運営要綱の一部改正について」、質問・意見等がありますか。
委 員	(特になし)
会 長	それでは、秋田県青少年健全育成審議会運営要綱の一部改正については、承認してよろしいでしょうか。

委 員	(異議なしの声あり)
会 長	<p>秋田県青少年健全育成審議会運営要綱の一部改正については、承認されました。</p> <p>次に、議題②「第3次あきた子ども・若者プランの取組状況について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>資料5は、「第3次あきた子ども・若者プランの実績、現状分析、課題及び今後の取組方針」となっています。第3次あきた子ども・若者プランでは、乳幼児期、学童期、義務教育期、思春期、青年期と、子ども・若者の成長段階ごとにステージを分け、各種の指標を設定して施策を推進しています。表の左側の欄に、各指標に対する実績値と目標値、達成率による定量的な評価を、右側の欄には現状分析、課題、今後の対応方針を記載し、定性的な評価を行っています。</p> <p>達成率による定量的な評価では、全部で32ある指標のうち、達成率が100%以上のものが6個、達成率80%以上100%未満のものが15個、達成率80%未満のものが8個、令和5年度の実績がまだ出ておらず未判明となっているものが3個ありました。定性的な評価については、記載のとおりです。</p> <p>第3次あきた子ども・若者プランは令和3年度から6年度までの4年間の計画であり、今回は3年度目の実績となりますが、達成率80%以上の指標が全体の65%を占めており、なかでも「母子家庭の年収240万円以上の世帯の割合」や「食育ボランティアが行う食育活動への参加人数」など、数値が大きく改善しているものもあります。その反面、「千人当たりの不登校者数」や「あきた結婚支援センターへの成婚報告者数」などは数値がかなり悪化している状況です。</p> <p>資料6は、「第3次あきた子ども・若者プランに関連する施策の実施状況」となっています。子どもや若者の成長段階ごとのステージ別に各種施策を構成しており、それらの施策に対応して各部署が実施した事業の内容と、令和5年度決算額及び令和6年度予算額を記載しています。</p>
会 長	事務局から説明のありました「第3次あきた子ども・若者プランの取組状況について」、質問・意見等をお願いします。日ごろ皆様が感じている青少年健全育成への課題や、青少年を取り巻く環境変化の影響など、

	<p>気づいた点がありましたら、お話しください。</p>
熊谷委員	<p>青少年健全育成活動をしています。青少年健全育成活動をしていますが、少子高齢化の進行で、今までの活動が縮小したりできなくなったりと、課題が大きくなってきています。子どもを見る立場として、これ以上の少子化は避けられないことかもしれないけれど、その度合いを少しでも和らげられるような政策がほしいと思っており、これは行政だけでは解決できないことかもしれないが、本県は少子化全国ワースト1位であり、この状況を何とか改善してほしいと願っています。資料の詳細に入る前に、少子化対策に関する県と市町村の役割分担はどのようなになっているのか教えてください。</p>
次世代・女性 活躍支援課	<p>ご承知のとおり、本県の出生数は令和4年から4千人を割り込んでおり、令和5年は3,611人となっている状況です。県でも様々な施策に全庁をあげて取り組んでいるところですが、直接的な、いわゆるサービス提供の部分については多くを市町村が担っており、県はその財政的な支援を行っているほか、県と市町村が共同で行っている施策もあります。</p>
笈川委員	<p>「ICTを活用した秋田の教育力向上事業」について、他国では、行きすぎたICT教育が見直されつつあり、例えばスウェーデンの学校では、デジタル教科書や教材の一部を紙ベースに戻すという動きがあります。文科省の意向などもあると思いますが、本県におけるICT活用教育の考え方について教えてください。</p>
教 育 庁 義務教育課	<p>本事業は学校側と協議を進めながら行っており、タブレット端末を文房具のように、いつも身近に置きながら適切に使っていくことについて、授業の中でどのように位置づけていくかを研究しているところであると承知しています。</p>
菅野委員	<p>国公立小・中学校における不登校者数の令和5年度実績が出ていますが、私が所属する教育機関でも、小・中学校時代に不登校であったとか、高校で不登校になったという過去を持つ学生が結構います。そういった学生からは、学校からのサポートを十分に受けられなかったという話を聞くことがあります。</p> <p>少子化の状況にあっても不登校は増加傾向にあり、子どもを育てる環境を整える上で、すごく大切な部分になると思います。不登校の原因は</p>

	<p>それぞれであり、全てに対応するのも難しいところかとは思いますが、学校・民間・家庭の協力体制を立てて対応していく必要があると思います。</p> <p>障害や発達障害による生きづらさであったり、学校という組織への所属のしづらさという問題もあると思いますし、そこに属さないけれども、生きづらさを抱えている子どももいると思います。そういった子どもたちへの支援を、県としてどのように行っていくのか伺います。</p>
教 育 庁 義務教育課	<p>不登校の要因は様々であり、今回の国の調査においても、「学校生活にやる気が出ない」「生活リズムの不調」や「不安」といった要因が多くなっている状況にあります。</p> <p>学校だけで全ての不登校児童生徒に対応することは難しくなっており、今後は、市町村が運営する教育支援センターや、民間フリースクール等との連携が必要と考えており、そういった機関や団体との連携協議会を開催して対応の仕方について協議しているところであり、今後も継続していきたいと考えています。</p> <p>発達障害への支援については、そういった子どもの兆候を早くに捉えて、生きづらさについてしっかりと把握することが大切と考えています。県では、スクールカウンセラーや、家庭のことについてはスクールソーシャルワーカーを配置していますので、そういった子どもと早期につながり、適切な関係機関による支援へとつながっていく取組を推進しています。</p>
会 長	<p>発達障害については、間違った知識や情報が流れていたりするので、やはり周りのおとながどう見ていくか、どう関わっていくかが大事だと思います。</p>
高橋委員	<p>先日の新聞で、本県の小・中学校における不登校児童生徒数が1,947人にのぼったとの報道がありました。私は横手市にある十文字中学校のPTA会長を務めており、本校でも不登校生徒は増加傾向にありました。学校側でも、子どもとの対話を止めないように、学校に出てこれなくても引きこもらないように、かがやき教室やスペースイオ、放課後登校、保健室登校等を活用しながら、子ども一人一人に対するサポートをしているところですが、今年度からクラス担任制をやめて学年担任制を取り入れたところ、1週間ごとに担任が変わるというシステムにより、子ど</p>

	<p>もたちも先生も非常に活性化されてうまく回っており、不登校生徒も昨年に比べて減りました。学年担任制は東北ではまだまだ事例が少ないようですが、県内では本校が2例目となるほか、横手市内の小学校2校が取り組んでおり、こういった実証効果も出ていますので、もっと進めていっていても良いのではないかと感じています。</p> <p>高校入試についてですが、どうしても県内の中学生がスポーツ推薦という形で他県に流出してしまっており、県内のスポーツがどんどん弱体化していると感じています。県内の高校野球、バスケットボール、バレーボール等をどんどん強くしていきたいという思いがありますので、高校生になったらスポーツで全国を目指して向かいたいという生徒のニーズに対して、入試制度が昨年度から変わったことも含めて、県の考え方を伺います。</p>
教 育 庁 高校教育課	<p>スポーツをやりたいという生徒の県外流出については、入試制度が変わったからとは一概に言えない部分もあると考えており、やはり、県内の中学生に、この高校で野球をやりたい、バスケットボールをやりたいと思ってもらえるように、各高校の魅力を上げていくことが最も大切と考えています。入試制度については、生徒のニーズをしっかりと分析した上で検討していく必要があると考えています。</p>
沢屋委員	<p>施策についてはおおむね頑張っている印象がありますが、施策以外の部分に関しては、新たな課題も出てきていると思います。</p> <p>中学校における部活動の地域移行について、実際に受け皿となっている市町村の方では難儀しているという話を聞きます。今後の方向性や落としどころについて、こども計画に直接関係する話ではないですが、保護者もかなり気にしていますので、説明してください。</p>
教 育 庁 保健体育課	<p>部活動の地域移行に関しては、保護者や地域の指導者等からも不安の声をいただいているところです。県としては、実施主体である市町村へのコーディネーターの設置・派遣やモデル事業の実施等も含めて、必要な支援を検討しています。人口が密集しているところとそうでないところではまた違うなど、地域ごとにそれぞれ異なる事情があり、県全体で一律で取り扱うことはできないため、国の指導等も参考にしながら、地域や子どもたちの実情等を慎重に探りながら進めていきたいと考えています。</p>

沢屋委員	<p>教員のなり手がほとんどいなくなっている中で、これは働き方改革の一つでもあると思いますので、市町村まかせではなく、県としても必要な支援をお願いします。また、頑張っている市町村の取組事例や、中には成功事例も出てくると思いますので、そういうところを県民に広くアピールしていくことで、方向性が見えてくる場所もあると思いますし、地域の中から協力できる人が出てくるかもしれませんので、よろしくお願いします。</p>
大島委員	<p>ネットトラブル被害児童生徒について、どのようなトラブルがあるのか、差し支えない範囲で教えてください。</p> <p>被害にあった児童生徒の割合が微減したとのことですが、どのような取組をして微減につながったのでしょうか。警察としても、学校を通じた情報モラル教室や啓発活動に取り組んでいます。子どもたちだけでなく、保護者や地域へのアプローチが欠かせないと感じているところです。こういった形で保護者等に啓発しているのか教えてください。</p> <p>実際に警察の方でも、ネットトラブルに関しては、犯罪被害だけではなく、非行防止と両面で取り組んでいるところですが、指標では被害に特化した実績数値となっています。トラブルを起こした側に対しても見ていく必要があると思いますが、こういった児童生徒の件数や内容は把握していますか。</p>
会 長	<p>被害にあった児童生徒だけではなく、加害側としてネットトラブルを起こした、あるいは関わった児童生徒への対応についての質問ですね。</p>
教 育 庁 義務教育課	<p>ネットトラブルの内容については、SNS等で友だちの悪口などをつぶやいて、それが広がってしまったりとか、写真等をグループLINEの中で勝手に共有したりといったトラブルが多いと承知しています。</p> <p>保護者等への啓発については、学校が調査を行った際にネットトラブルの内容を把握することができますので、各学校ではそれを受けて適切に対応するとともに、情報モラル教室をもとにスマートフォンの適切な使い方を指導したり、講師の話を保護者にも聞いていただくといった形で啓発しています。</p>
教 育 庁	<p>当課では、家庭・地域におけるインターネット健全利用の推進として、</p>

生涯学習課	<p>「＼あい＼で見守る！あんしんネット構築事業」を実施しています。ネットパトロールのほか、県庁出前講座のメニューとして、県民の要望に応える形で啓発講座と低年齢化対応講座を開催しており、家庭でのインターネット機器利用ルールの作り方や、不適切な投稿等によるネットトラブルに巻き込まれないために家庭で気をつけるべきこと等について話をしています。今年度も9月までの間で、全県で30件の講座を開催しており、2,600名ほどの受講者がありました。</p>
伊藤委員	<p>SOSの出し方に関する教育の実施校の割合について、小・中学校が70%を超えているのに対して、高校の実施率が15%と非常に低くなっているが、この理由や対策等について、もう少し詳しく教えてください。</p>
保健・疾病 対 策 課	<p>当課では、自殺予防対策として、教育庁や関係機関と連携してSOSの出し方教育に取り組んでいるほか、学校に対しては、「ふきのとうホットライン」のチラシを児童生徒へ配布してもらっています。また、今年度からは、夏休み明けに中学校・高校の保健室にチラシを設置してもらうといった取組も行っていますが、高校におけるSOSの出し方教育の実施率が低いことに関しては、学校側の授業カリキュラムの関係もありますので、こういった枠の中で入っていけるかについて、教育庁と相談しながら進めているところです。</p>
早川委員	<p>私の住んでいる地域では、子どもたちの姿がなかなか見えなくなっています。やはり町中に子どもたちの姿があったり、声が聞こえてきたりするような環境をどんどん作っていく必要があると思います。</p> <p>不妊治療などの問題もありますが、まずは、私たちが犬や猫を見ると、ちっちゃくてかわいい、欲しくなると思いますよね。そういうふうに、子どもたちの声を聞いたり、遊んでいる姿を見ると、やっぱりかわいくて欲しくなったりするのではないかなと、単純に私は思うわけです。</p> <p>県でも、様々な施策等を実施する際には、そういう環境を作ることを頭に入れておいて、子どもたちが見えるような、そういう環境につながるような活動をどんどん行っていただきたいと思います。</p>
会 長	<p>議論が出尽くしたようですので、「第3次あきた子ども・若者プランの取組状況について」は、これでよろしいでしょうか。</p>

委 員	(異議なしの声あり)
会 長	3 報告
事 務 局	<p>次第(3)「報告」に入ります。</p> <p>報告①「秋田県こども計画の策定について」、事務局から説明をお願いします。</p> <p>現在、秋田県こども計画策定委員会での審議を経て、秋田県こども計画素案の作成が進められているところです。</p> <p>資料7の左側には、計画策定の経緯、子ども・若者を取り巻く現状、計画推進の基本的な考え方、主な数値目標を記載しています。計画推進の基本的な考え方としては、「全ての子ども・若者が、個性や多様性を尊重され、将来に希望を抱きながら健やかに成長し、幸福な生活を送ることができる社会を目指す」ことを基本理念とする予定です。主な数値目標としては、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う児童生徒の割合の増加、高校生の県内就職率の増加等を設ける予定としています。</p> <p>資料の右側には、施策の推進方向を記載しています。「秋田の未来を切り拓く子ども・若者への支援」、「子ども・若者が健やかに成長できる環境整備」、「困難を有する子ども・若者への支援」、「子育て当事者を社会全体で支える体制の充実」の4つの推進方向を設ける予定としており、それぞれの推進方向に対応する施策が記載されています。</p> <p>今後のスケジュールについては、12月県議会に素案を報告するとともに、年明けの1月までパブリックコメントを実施します。その後、最終的な計画案を作成し、2月県議会での審議を経て、3月末に計画を確定し、4月からスタートする予定です。</p>
会 長	<p>事務局から説明のありました「秋田県こども計画の策定について」、質問・意見等がありますか。</p> <p>先ほど早川委員から質問・意見のあったことについては、「多様な遊びや体験、活躍できる機会づくり」や「子ども・若者の視点に立った居場所づくり」などが関係するかと思いますが、いかがでしょうか。</p>

早川委員	<p>先ほどはおとな側の視点で話をしましたが、やはり子どもの側から見ても、子どもたちが見える環境があれば、おとなからの見守りも期待でき、安心できると思います。</p>
熊谷委員	<p>県では非常に頑張っていると感じており、予算を付けて素晴らしい施策に取り組もうとしているのは良く理解できますが、これを利用する県民の立場から見ると、どうも申請主義と言いますか、施策を受けるためのハードルがなかなか高いと感じています。例えば、何か悩みがあって相談したいときは電話してくださいと言われても、電話することに抵抗感があったり、どこに電話すれば良いか分からないという人もいます。</p> <p>子育てに関して言えば、子どもが就学年齢になれば学校に対して様々な相談をすることができるのですが、就学前の子どもがいる家庭の場合は、若い人は子育てに関して知らないことも多いし、悩みを解決できずにいたりすることもあると思います。利用する立場の視点に立ち、どうすれば県の施策と市町村の施策をうまくつなげることができるのかをよく考えてほしいと思っています。そうでなければ、せっかくいい計画を作っても計画倒れになってしまいます。広島県では、県がネウボラ制度（ひろしまネウボラ）を策定して各市町村が実施しており、就学前の子どもがいる家庭には年に数回、定期的に専門の支援員が訪問して面談を実施しています。そのように、相談に来るのをただ待つのではなく、自ら出向いていく姿勢が重要だと思います。</p> <p>地場農産物の学校給食利用率については、なかなか伸びないですね。様々な事情があることは承知していると思いますが、この施策をいつまでも続けることはできるのでしょうか。</p> <p>本県の子どもたちの基本的な生活習慣については、全国的にも素晴らしいということが全国学力・学習状況調査で分かっており、それが学力の支えにつながっているとの評価だったと思いますが、その指標となる指数が近年下がってきていることに驚きました。これに対して何か対策を検討している場合は教えてください。</p>
教 育 庁 保健体育課	<p>学校給食については、全てを地場農産物で賄うことは現実的にはできないことから3割程度を妥当な目標として掲げており、研修会を開催したり、実際に給食献立を作成している栄養教諭と話をしながら進めていますが、なかなか利用率が上がらない原因は非常に複雑になってきてお</p>

	<p>り、学校や給食を作る側だけでは解決できない問題になっています。</p> <p>現場から上がってきている声によると、生産者との関係が変わってきたり、生産者が継続できなくなって関係が崩れたりといった声が多く聞かれます。子どもたちに地元の食材を食べてほしいということについては引き続き取り組んでいきたいと考えていますが、天候の問題や生産者数の減少、流通システムの変化等により、安定した供給量を確保することが難しくなっています。</p> <p>学校給食の調理業務でも大規模センター化が進んでおり、以前は学校に給食施設が付いていましたが、今は各地域の給食センターがまとめて調理をして、各学校に振り分け発送されるシステムになっているため、そういった変化に対応して、これまでの生産者との関係を見直したり、新たな関係性の構築等を視野に入れながら進めていきたいと考えています。</p>
会 長	<p>今週、秋田県こども計画策定委員会があり、そこでも広報について、困っている子どもにアクセスしていくかについて、もっと考えていかなければならないという話になりました。</p> <p>県ではこれだけの施策を行っているのに、皆さんが知らないことが多かったり、困った時に相談できる先を知っているか、困っていることを言える環境にあるかということが、すごく大事なことと思います。</p>
次世代・女性 活躍支援課	<p>支援が必要な子どもにはやはり様々な背景があり、市町村や関係機関・団体が相談窓口を設置している中で、県としてもそういった相談先の一覧表を作って配布しているのですが、その一覧表が、支援をしている側、受ける側にどれだけ認知されているかということ、まだまだ行き渡っていないのが現状と認識しており課題としています。そこをどのようにして周知していくか、引き続き頑張っていきたいと考えています。例えば子育て支援策については、自ら取りに行かなければならないような情報掲載の方法だけでなく、プッシュ型で情報を直接配信する取組も進めており、様々な方面から情報発信できるよう取り組んでいきたいと考えています。</p>
早川委員	<p>ひとり親の家庭や働いている人に対する支援はいろいろありますが、仕事をしていないお母さんが、子どもをちょっと延長保育したくてもなかなか受け入れてもらえない状況があります。働いていない人でもいろ</p>

	<p>いと抱えているものがあり、例えば妊娠でつわりがひどかったりするときも気軽に子どもを預けられる所があれば良いとの声も聞きます。</p> <p>離婚していなくても、家庭の中で問題や葛藤があったり苦しみを抱えている人もおり、幼稚園や保育園に頼りたい、ちょっと一人の時間が欲しいといった悩みも聞きますが、なかなかそういうことができない、頼むにしても、根掘り葉掘り聞かれて言いたくないようなことまで言わなければならなかったりします。そのような、仕事をしていない様々な事情を抱えている人に対する支援についてはどう考えていますか。</p>
教 育 庁 幼保推進課	<p>そういった課題に対応して、いわゆる「こども誰でも通園制度」が子ども・子育て支援法に位置づけられ、来年度から地域子ども・子育て支援事業として市町村が事務を行うことになっています。今回の素案に掲げる取組の地域子ども・子育て支援事業のメニューに記載はありませんが、今後位置づけ、県としても必要な支援を行っていきたいと考えているところです。</p>
会 長	<p>「秋田県こども計画の策定について」は、これでよろしいでしょうか。</p> <p>次に、報告②「優良図書等の推奨について」、事務局から説明をお願いします。</p>
事 務 局	<p>昨年11月に行われた環境浄化部会において、推薦があった1冊の図書に対して、県からの諮問に基づき審議し、優良図書として推奨を答申しています。図書名、発行所等については、記載のとおりであり、県では令和5年12月1日に、答申を踏まえて優良図書の推奨を決定し、公表・周知しています。</p> <p>今年度においては、既に優良図書13冊の推薦があり、県から諮問されていますので、この全体会終了後、引き続き第2回環境浄化部会を開催し、審議する予定としています。</p>
会 長	<p>事務局から説明のありました「優良図書等の推奨について」、質問・意見等がありますか。</p>
委 員	<p>(特になし)</p>

会 長	4 その他
事 務 局	<p>次第(4)「その他」に入ります。 事務局から何かありますか。</p> <p>特にありません。</p>
会 長	全体を通して、皆様から何かありますか。
委 員	(特になし)
会 長	それでは、進行を事務局にお返しします。
事 務 局	5 事務連絡
	<p>皆様、熱心な御審議ありがとうございました。</p> <p>皆様からいただいた御意見につきましては、今後の施策に結びつけられるよう、関係各課で検討していきます。</p> <p>ここで事務局から事務連絡をお伝えします。</p> <p>この全体会終了後、引き続きこの場で環境浄化部会を開催しますので、環境浄化部会委員の皆様は、時間になりましたら御着席ください。</p> <p>全体会については、この後、今年度中の開催は予定していませんが、重要事項等の審議案件が生じた場合には、開催等について御連絡します。</p>
事 務 局	6 閉会
	<p>それでは、これをもちまして、令和6年度第2回秋田県青少年健全育成審議会の全体会を終了します。</p> <p>皆様、ありがとうございました。</p>